

ユニバーサロンレポート

《電子書籍》誰でもじっくり触って選べる「e読書ラボ」――東京神田神保町にオープン



写真

最新の電子書籍端末やコンテンツと既存の紙の本を比べながら見やすさや使いやすさを誰でも自由に体験できる新しいスタイルの読書空間「e読書ラボ」が先月30日、本の街・東京神田神保町にオープンした＝写真。近隣の国立情報学研究所（坂内正夫所長）が未来の読書を体験できる公開実験室として神田古書店連盟とNPO連想出版が共同で運営している「本と街の案内所」内に開設した。端末の使い方や電子化されている書籍の検索方法が紹介されていたり、同研究所連想情報学研究開発センター（高野明彦センター長）などの最新研究成果も展示されている。閲覧可能な電子書籍は、日本電子出版協会（JEP A）加盟の出版各社などがコンテンツを提供している。

新設されたラボでは、300冊以上の電子書籍を10機種の端末を使って読み比べたり、書棚にある活字原本との違いなどを体感できる。また電子版の辞典などでレファレンスサービスを試すこともできる。

「端末に触れることで、キンドルなどのイーブックは高齢者には見やすいがカラー画像や雑誌は液晶の方が見やすいこと、アンドロイド端末の日本語音声合成は購入した電子書籍は読み上げないなどの課題があることが実感できます」。国立情報学研究所連想情報学研究開発センター特任助教の阿辺川武さんが説明してくれた。

今後、自炊（書籍の電子化）方法の紹介や著作権フリーの電子図書館「青空文庫」からの書籍ダウンロードサービスなども提供する計画だ。

e読書ラボの所在地は東京都千代田区神田神保町1の7の7「本と街の案内所」内。東京メトロ神保町駅A7出口より徒歩3分の靖国通り沿い。開館時間は午前11時半～午後6時（日・祝祭日は休み）。【岩下恭士】